

埼玉育ちのグローバル人

Think Globally. Act Locally.



埼玉県マスコット
「コバトン」

第3回 「全速力で遠回り」

令和3年度 埼玉県・県立学校長期派遣研修者
金田 智 さん



カリフォルニア州の大きな二つの街、サンフランシスコからロサンゼルスまでは、州道1号線という海岸線をひたすら進む道があります。一緒に旅をしている John の夢は、この道をドライブすることと、カリフォルニアでサーフィンをすることでした。John の夢を叶えるため、州道1号線の延々と続く壮大な景色を楽しみながらロサンゼルスに向かい、そしてロサンゼルス郊外に住む John の友達の協力で、「カリフォルニア州でサーフィン」も出来ました。サーフィンを楽しんだ後、夕日の綺麗なビーチで John が流した涙が忘れられません。夢が叶うことの素晴らしさ、そして夢を実現することの感動が、もしかしたら今の私の原動力になっているのかもしれない。



カリフォルニアでサーフィン

さらに旅は進み、眠らない街ネバダ州ラスベガスへ。まさに、ザ・エンターテイメントのラスベガス。カジノはもちろんのこと、各有名ホテルが每晚

開催しているショーが本当に素晴らしかったです。少しだけラスベガスのカジノも経験し、ホテルの屋上にある絶叫アトラクションも楽しみました。実は私の高校時代の部活仲間が、ホテル業を学ぶためにラスベガスの大学に通っていたため、彼のアパートに2日間お世話になりました。もう20年以上前でも、こうして海外で自分の夢を実現しようとしている仲間がいたんです。彼も含めて、海外留学をしていた友人達がいたから、私も頑張れたのかもしれない。



夢のグランドキャニオン

旅はいよいよ終盤、私の夢であったグランドキャニオンです。何億年もかかってできたその峡谷が、私の前に広がった時、言葉が出ませんでした。その大きさ、美しさ、そしてその迫力に、ただただ立ち尽くしていました。圧倒され、包み込まれ、そして何も考えられなくなりました。目頭が熱くなり、涙が溢れました。この地球の歴史、人の歴史、そしてその中にあるほんの小さな自分。悩みは無

くなりました。

グランドキャニオンを後にした後、ニューメキシコ州のサンタフェの街を楽しみ、コロラド州、ネブラスカ州を抜け、Johnの住むアイオワ州に戻りました。約1か月の旅となりましたが、一生忘れることのできない思い出となりました。1年間の留学生活の最後に、最高の思い出ができました。



旅の後半～カルフォルニア州からアイオワ州へ～

無事に「最高の留学生活」から帰国し、いざ英語教師を目指し頑張ろうと考えていたところに、在籍する大学の友人から、シェークスピア劇研究会の卒業公演に出演しないかと誘われました。キャストが足りなくて困っている様子だったので、助けるつもりで参加してみるとすっかり演劇の楽しさにはまってしまい、卒業公演終了後も誘われるがまま演劇の道へ。都内の即興演劇のワークショップに毎週通い、即興演劇のショーに出演したり、自分たちで劇団を立ち上げて池袋の小劇場で公演したりしました。小さな芸能事務所にも所属し、宣伝材料写真を撮影してCMや映画のオーディションを受けたりもしました。周りの役者仲間になれないように、なんだか必死になっていました。でも、ふと気づくと、一体自分が何をしたいのか分からなくなってきました。始めは新しく楽しかったことが、だんだんと苦しくなってきました。そんなある日、お世話になっていた即興演劇の先生のところへ相談に行くと、先生から質問されました。「この世の中に生まれてきたからには、この世の中に貢献しないといけない。あなたは どうやってこの世の中に貢献する？ そのためのあなたの武器（売り）は何？」。意外にも、答えはすぐに出ま

した。「私は教師として、この世の中に貢献したい。そのための私の武器は、声と目からと行動力です。」私は、演劇の先生や周りの友人から、声が良い、目から強い、とよく言われていました。そして、思い立ったらなんでも「ひとまずやってみる」行動力がありました。それらをちゃんと武器として、人のために使うことができる職業は、私にとって教師であり、そもそも教師になりたくて大学進学し、アメリカ留学したことを思い出しました。外へ外へと作用していた私の好奇心（遠心力）の中心には、「教師」がありました。翌年、私は私立高校の非常勤講師をしながら、埼玉県の教員採用試験を受験し、公立高校の英語教師となりました。



シェークスピア研究会卒業公演

思えば、自分の高校生活が楽しかったのは、本当に色々な個性に溢れた友人たちに囲まれていたからです。そして留学先では、肌の色も目の色も、国籍も宗教も違う人たちと友達になり、お互いの違いを受け入れながらも、問題があればみんなで解決策を話しあいました。壮大なアメリカという国で、自分が暮らす日本や自分自身を俯瞰的に見ることができました。そして演劇。自分を「商品」として考えた時、自分の「武器（売り）」は何なのか、何を周りは自分に求めているのか。そしてそれぞれ武器の違うみんなによって作り上げられる一つの作品…。

そして気づきました。私は「みんな違ってみんな良い」、そんな学校づくりがしたいのです。もちろん、言うほど簡単ではないことは分かっています。だからこそ、今も私は学び続けています。色々な本

を読み、様々な方々と話をし、目の前の仕事に一生懸命取り組んでいます。随分と遠回りした気もしますが、全ては今この瞬間に繋がっています。

みなさんはどうですか。自分自身がどんな人間で、どんな資質や能力（売りや武器）があり、何のために、どのように、その資質や能力を発揮していますか。もしもまだその答えが分からなければ、まずは自分の隣の困っている人に手を差し伸べてみてください。話を聞いてあげて、一緒に考えてみてください。きっと学びがたくさんあります。知りたいことがどんどん増えます。そしてどんなに小さくても、具体的な行動に移すと反応があります。時に変化が起きます。するとまた学びが起こり、行動は続きます。

ワクワクしますよね。

私にとってグローバル人とは、「多様性を受け入れ、対話を通して合意形成できる人」であり、そのために私はまずは行動してみることが大切だと考えています。その意味で、私はこれからも「自分なりのグローバル人」でいられるように、「みんな違ってみんな良い」社会の実現のために、具体的な行動を続けていきたいと思います。今回、3回のエッセイを通じて私がお伝えした内容が、少しでも皆さんの行動のきっかけになれば幸いです。大丈夫、あなたならできる。ほんの小さな行動からです。

Think globally. Act locally.